

第5回一関市総合教育会議 議事録

- 1 会議名 第5回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 平成29年5月29日(月) 午後2時～午後3時30分
- 3 開催場所 一関保健センター 2階 会議室3・4
- 4 出席者

【構成員】

| | | |
|-------|--------|----------|
| | 勝部 修 | 市長 |
| 教育委員会 | 鈴木 功 | 委員長 |
| 〃 | 千葉 和夫 | 委員長職務代理者 |
| 〃 | 小野寺 眞澄 | 委員長職務代理者 |
| 〃 | 佐藤 一伯 | 委員 |
| 〃 | 小菅 正晴 | 教育長 |

【事務局等】

熊谷市長公室長、佐藤政策企画課長、佐藤政策企画課主幹、宍戸政策企画課政策企画係長、千葉保健福祉部次長兼子育て支援課長、鈴木健康づくり課長、大内健康づくり課長補佐兼健康推進係長

中川教育部長、千葉一関図書館長、小山教育部次長兼学校教育課長、佐藤教育総務課長、佐藤文化財課長兼骨寺荘園室長、千葉一関市博物館次長、中田教育総務課課長補佐兼庶務係長

- 5 議題
 - (1) 一関市の先人や歴史・文化の理解促進について
 - (2) 子どもたちの体力について

- 6 公開、非公開の別
公開

- 7 傍聴者の数
報道3社

- 8 会議の内容

(市長挨拶)

この総合教育会議は、教育委員の皆様と地方行政の連携を密にしようと思ったわけですが、私の考えとしては、あまり狭い範囲のテーマにとらわれずに、幅広く当初予定した項目に無いことでも関連する内容については、話し合いをしていきたいと思っております。これまでの開催資料を見ましたら、平成27年から始まっているわけですが、同じテーマを2回ずつ行ったりして1回で終わらず、次の会議のテーマに加えたりしています。今回のテーマの1つ「一関市の先人や歴史・文化の理解促進について」は、前回は引き継いで、さらに話し合いを深めていけると思っておりますし、こういうやり方が定着すれば、かなり

意義のあるものになるのではと感じています。

先週の金曜日に、来春の高卒者の就職に係る雇用要請活動があり、一関公共職業安定所によりますと、来春の卒業予定者 1,192 名、進学希望者が 733、就職希望者が 431（縁故就職を除く）そのうち現時点ではっきりと就職希望を出しているのが 384 名とのことでした。地元に着きたいという希望があるにもかかわらず、地元就職の数が下回るという、人口減少対策の大きな課題であります。地元企業を訪問して採用をお願いしたところですが、企業は、今まで不景気で採用を抑えてきた分、採用意欲はあるものの、なかなかいい人材に巡り合えないということもあるようです。地元に残ってもらって定着し、地元の発展を担う人材が増えていくようにしなければならないと思います。

今回のテーマについては、前回に引き続いて「一関市の先人や歴史・文化の理解促進について」と、新しいテーマとして「子どもたちの体力について」という 2 つのテーマにそって、ざっくばらんな意見交換をさせていただければと思います。限られた時間ですが意義のある意見交換ができればと思います。よろしくをお願いします。

(1) 「一関市の先人や歴史・文化の理解促進について」（進行：教育長）

教育総務課長：資料 1 により説明

(教育長)

前回に引き続きのテーマですが、様々な角度から皆様にお話ししたいと思います。

(千葉委員)

資料の 2・3 ページ目の「地域の先人・歴史及び伝統・文化に関する学習等状況調査」については、調査結果は、各小学校へ提供するのでしょうか。

(教育部長)

後日、提供することとします。

(千葉委員)

「地域の先人」の欄に空欄がある学校は、この資料を見て刺激を受けるのでよいのではないかと思います。

(教育長)

全体の取り組みをそれぞれの学校が把握するということがなかったので良いと思います。「ことばの時間」について、8 人の先人を 4 ページずつ取り上げています。今年度は 6 校で先駆的に実施していますが、次年度以降は全ての学校で実施予定です。

(教育委員長)

「言海」のテキストの「先人」の部分を読みましたが、とても良い内容でした。子ども達にとって手ごろなボリュームと内容だと思います。参考資料の「状況調査」を見ますと、老松小のところに記載されている千葉胤秀以外の 2 人の人物と永井小のところに記載されている人物については、私は知りませんでした。文化会議所を出している「ゆかりの人物事典」には載っていました。各学校としては、地元

の先人と言ったら、学区か旧市町村の括りであり、一関全体になっていないのではないかと思います。共通版の 8 人と地域版の方々を併せて取り組めればよいと思います。文化会議所の「ゆかりの人物事典」には 140 数名、全ての地域でそれぞれ 10 名程度載っています。聞いたことがない人がいっぱい出てきて、分かっているほうが少ないくらいです。学校の先生方は人事異動で来られるから、地域の先人について取り上げるのは難しいと思います。「言海」のテキストの先人は先生方も取り上げやすいですが、地域版の先人については、取り上げ方の工夫が課題点であると思います。

(市長)

学校現場で子どもたちにどう見せるかということになると、今の教育委員会のシステム中での話になりますので、この会議では地域というものを前提に考えていきたいと思います。例えば、建立 70 年記念の宮沢賢治の「まづもろともに」の詩碑が出来るまでの物語、当時の青年団が大変頑張ったという記録があります。賢治には全国にたくさんのファンがおり、学校現場という枠にとどまらず、観光イベント等、様々な機会に併せてその人を理解する取り組みをし、地域全体で世代を超えて共有していければいいと思います。

岡山県の津山市に行った際に、西洋資料館に案内され、そこに入ってすぐ大槻玄沢の写真がありました。西日本に蘭学を広め、かなり大きな影響を与えたことが分かりました。津山では、大槻家と交流があった宇田川家や箕作家という一族がかなり有名でして、地域の方々は熱心に地域の先人について説明をしてくれます。

昨年、地ビールフェスティバルに際して調べたところ、日本で初めてビールを飲んだのは大槻玄沢であるということでした。鎖国の時代に長崎の出島で試飲をして幕府に報告を出した中に「ビール」という言葉があります。また、「バルーン」も大槻玄沢が日本に紹介したものです。玄沢が長崎の出島で、外国に漂流した仙台の漁師から聴き取りをして、バルーンの絵も描いてもらったということです。一関とゆかりがあるものですから、結び付けたら面白いと思ひまして、昨年の地ビールフェスティバルの会場に、大槻玄沢のエピソードを書いたものを設置しました。

こういった取り組みも地域の先人の方々に対する市民の接し方であり、今後、世代を超えて何かできないかと思っています。学校の中でどう取り組めばよいかだけでなく、一関という地域でどうするかという視点で自由に話をさせていただくとよいと思います。

(教育長)

さきほどの「ことばの時間」については学校での取り組みですが、展開とすれば、8 人の先人について学び、地域を盛り上げていくという契機づくりであり、今は小学生が対象ですが、今後、社会教育や地域づくりにおいて取り上げられれば発展形になるのではないかと思います。花泉地域では、先人の取り上げ方はどうですか。

(佐藤委員)

老松小学校は千葉胤秀の旧宅に近く、一部の資料が千葉家に残っており、2・3年前に研究者が整理をする際に協力させていただいたことがありました。

今日のテーマの、一関市の先人や歴史・文化の理解について、なぜ今必要なのかを考えましたが、一関全体で市民の一体感を感じることが、まちづくりや観光、地域の活性化や人づくりに大切だと思いました。

参考資料の「状況調査」を見ますと、「地域の先人」では大槻家に関するものが一関地域以外でも多く、33校のうち10校ぐらい、「地域の歴史」では平泉・骨寺関係が11校で3割、「地域の伝統・文化」では鶏舞が14校で4割以上、この3つが特に取り組まれているテーマだと思います。

このテーマをイベントと結び付けていけたら、楽しく地域の理解が深まると思います。

そういった際に、地域の郷土史家や先人顕彰会といった団体に関わっていただき、学校での発表の後に一般の方にもご覧いただいて、例えばその後に食事会をすとか交流ができるような形になっていたら面白いと思います。また、テーマを、各地域の独自のものとある程度市内で共通に取り組めるものとして、学芸員や図書館、民俗資料施設の活用を併せて図っていけたらよいと思います。

去年の12月に教育委員会定例会の中で、藤沢市民センターの社会教育事業の報告をお聞きしましたが、次世代事業プロジェクトとして、藤沢中学校の生徒と住民自治協議会とがまちづくりについて話し合い、特産物や野焼祭のPRなど、地域協働のまちづくりと社会教育を合わせたような取り組みを行っています。そういう活動に中学生や高校生が関わっていくことは、地域の活性化に自分たちも参加したという経験になり、将来、地元に残り、もしくは外に出てしまったとしても時々帰ってきて地域づくり活動に関わるということにつながるかもしれませんので、市民センターや地域協働体の取り組みも重要だと思います。

(教育長)

一関の先人について、大人の中でどの程度の話題があると感じていますか。

(小野寺委員)

話題としては、ほとんど無いのではないかと思います。今までの話や参考資料の「状況調査」を見ましても、「先人に触れた」とはどの程度なのか、「学習をした」というのが、子ども達がどの位の時間をかけて勉強しているのか気になるところです。また、親御さんとそういう会話ができているのかどうか、そもそも、親御さんが先人にどれほどの興味があるのか疑問に思います。

もう少しわかりやすく、例えば親子で夏祭りに仮装行列をすとか、身近に感じてもらえるように、くだけた部分があってもいいのかなと思います。楽しく仮装するために興味を持って調べますし、周りの皆さんも「その人って誰？」という興味が起こります。地域のたくさんの人たちに見せたり聞いてもらう場所があると、取り組みが具体的になるのではないかと思います。

(教育長)

参考資料の「状況調査」については、総合的な学習の時間で子どもたちが地域の方々の話を聞くとか、図書館で調べるとか、そういった行動に意味があり、実際の知識がそれほど深くなっているかは別問題と捉えています。先頃、博物館で大船渡線展をしたのですが、意外に多くの方々に来ていただきました。大船渡線ができた当時に東山の石灰が運ばれ、新しい事業が起こり宮沢賢治が来て、というつながりがありまして、子どもだけでなく大人にとっても新たな発見がありました。先人が一関全体に共通に認識されていくのは、これからかなと感じています。

(市長)

福島県三春町から姉妹都市提携30周年記念で釣山に植樹しました時も、当市とのつながりや愛姫のゆかりについてよく知らない人が多かったです。歴史・文化について市全体で共通認識を持ってもらう

のは大変だなと感じております。

先ほどの小野寺委員からのご意見の、親子での取り組みとか夏祭りでの仮装行列とか、そういった視点を広げることが大切だと思います。

夏祭りに関しては、周辺の他市に比べて厄年連が表に出ていないようです。祭りや伝統が代々引き継がれ、若者の自覚や責任感につながるものであり、厄年連の果たす役割は大きいと思います。

また、三春町で時代行列を見ましたが、行列で通過する時代の人物について、アナウンスが、どのようなことをした人物なのか歴史的な詳しい解説をしていました。こういう工夫はとても大事だと思います。今後は、イベントをうまく使って情報発信する方法を考えることが大切です。

(教育長)

教育委員長さんが実行委員長である大原の水かけ祭りが県の文化財指定となりましたが、地域での歴史的な理解や取り組みについてお話しください。

(教育委員長)

県の無形民俗文化財になったわけですが、10年前の350年祭の時の資料を見ましたら、文化財指定に係る項目があり、その時から意識をしていたのだと知りました。今後は、歴史的な意味合いを住民参加の中で学習して、意識高揚を図る必要があるなど感じました。伝承だけでなく、歴史性や民衆のエネルギーとしてどんな取り組みをしてきたのか、学習しながら行動力を引き出しながら住民一体で取り組みを行っていかねばならないと思います。30年前に、このまま大原だけの祭りとしていったら維持発展が難しいということで、幅広く県外も含め他地域からも参加していただくことを考えまして以後、外に向けてアピールすることを大切な柱としてきました。内に埋没しないで外に発信するためにどうするかということを中心に据えると創意工夫が出てくると思います。

(千葉委員)

水かけ祭りで走る人は厄年ですか。

(教育委員長)

地元の人は厄年です。伝統的な部分と現代的な部分の両面がありましたが、地元の伝統部分は歴史性を尊重し、外からの方々についてはオープンに行っています。

(市長)

厄年と「〇〇祈願」の部分があり、オープン参加の方々も出発前にレクチャーを受け、しっかりルールを守って参加しているようです。

(千葉委員)

実行委員会と厄年連の関わりはありますか。

(教育委員長)

組織としては関わっておらず、「参加」の形です。

(教育長)

去年、水かけ祭りに参加させていただきましたが、実行委員長の挨拶に、祭りの歴史のお話があり、参加者としてそれを聞き、祭りに向かう気分が盛り上がりました。

ところで、職員が偶然見つけたのですが、「となりのトトロ」という有名なアニメで、考古学者であるお父さんの部屋での場面があるのですが、考古学関係のたくさんの本が並んでいる本棚の右端に「言海」があるのだそうです。こういうことから見ても、「知る人ぞ知る」というのはあるのだなと思いました。実は外で多くの人々に知られているということもありますので、もっと宣伝をしてもいいのかなと思いました。

(教育委員長)

大槻三賢人の講演会を旧東磐井で、芦東山を一関地域でやってみてはどうかと思います。市内全体で分かっていることになってはいますが、必ずしもそうではないようなので、場所を変えてやってみてはどうかと思います。博物館や記念館で来館者を待つだけでなく、外に出て攻めてみてはどうかと思います。大人に焦点を当てても子ども達が合流できればよいと思います。

(市長)

仙台とか東京でやってもいいかもしれません。情報発信の方法をさらに考えていかなければならないと思います。

(教育長)

一関の歴史や先人はものすごい数があり、あらゆる機会を捉えて様々な方法で発信していくことが今後重要であるということで、このテーマについては区切らせていただき、次のテーマに移りたいと思います。

(2) 「子どもたちの体力について」(進行：教育長)

教育総務課長：資料2-1及び資料2-2により説明

(教育長)

このテーマの資料を見て、まず印象に残ったことを語っていただければと思います。

(小野寺委員)

子ども達に栄養指導を行っているということですが、家庭や親御さんに対する指導等の取り組みはどうですか。

(教育部次長兼学校教育課長)

各学校の学校保健会の大きな話題として、食育等について周知しています。

(教育委員長)

生活習慣病健診は、小4と中1の希望者対象とありますが、希望者はどのくらいあるのでしょうか。

(教育部次長兼学校教育課長)

健康診断をして、所見が見られる子どもに対しては、生活習慣病予防の指導や健診の案内文書を出しています。ほとんどが受けますが中には受けない子もいまして、強制力はありません。

(千葉委員)

肥満傾向について、小1から中3までの肥満傾向が一関市は全国・県平均と比較して高いようですが、一関の経済力が高く食生活が充実しているからなのか、あるいは、運動不足の結果なのか、何か分析結果があれば聞かせてください。

(教育部長)

細かい分析はしていませんが、小学校1年生の時点から全体として肥満傾向にあり、中学生になると部活に入って痩せていく傾向のようです。

(教育長)

中学校は、大体が県平均並みになっているようですが、小学校はどの学年でも全国・県平均と比較して肥満傾向が高く、すでに小学校に入る時点で高いようです。学校での給食は栄養のバランスがとれていますので、それほど違いは出ないと思います。家庭での生活習慣や、食生活・運動について、親御さんへの働きかけを今後もっと力を入れていかなければと思います。

(教育委員長)

昔は、学校から距離が遠いと歩かざるをえない環境にありましたが、今では、学校に近いほど歩くようです。遠く不便だと玄関から玄関まで車だったりします。ましてや、小学校に入る前はかなりの部分で車移動が主だと思います。

(小野寺委員)

この調査の年を見ますと、震災後で、外であまり遊ばないという傾向があり、それも数字に影響しているかもしれません。

(市長)

体力テストについては、種目別というよりトータルで考えればよいのでしょうか。

(教育部長)

1年前の資料で申し上げますと、一関市の子どもは、柔軟性（前屈）が低く、俊敏性や握力等は上回っているようです。持久力や短距離走は学年によって上回ったり、下回ったりのようです。

(教育長)

資料を見ると、肥満が多い割には、シャトルランは全国・県平均より高いです。

(教育部次長兼学校教育課長)

シャトルランは持久力を見る種目です。

(教育長)

磐清水小学校が全国の健康づくり推進校の優良校に選ばれました。5年ぐらい前は、学校全体で肥満の率が20%を超えていました。朝、親御さんが学校に送ってくるのですが、学校の1km手前で降ろすように協力要請をし、また、学校に来たら校庭を走らせるということをしていました。校庭を年間で300周走るということを目標にして行っていたようです。それにより、どんどん肥満率が下がり、シャトルランの偏差値が上がり135(全国100)までになったとのことでした。

このように取り組みを行えば一定の効果は出るということですが、例えば、1km手前で車から降りて歩くとしても、もし熊が出たりしたら大変ですし難しい部分もあります。いずれ、運動習慣というのは大事だと思います。

(教育委員長)

資料にある県の教育委員会が掲げる「元気・体力アップ60運動」について、学区によっては、安全安心の観点から、体力づくりとの兼ね合いが難しいかもしれないと思いました。通学路の安全確保や交通安全を考えますと、見守りの方などがいる朝の方が取り組みやすいと思いますが、通学もバスや送迎が多かったりするので、工夫が必要であると思います。

(市長)

この「60運動」のように、健康づくりに関するものは、数字を使うことが多いですね。

(教育長)

数字をキャッチコピーとして使うことは、広く浸透しやすいと思います。

(市長)

親の肥満という傾向もありますし、親と子で行う、むしろ親が子どもに引っ張られる形で運動するのがよいのではないかと思います。

(小野寺委員)

親御さんがいかに家庭で栄養のバランスを考えた食事を作るかということがまず第一だと思います。

(教育長)

和食や郷土食は健康に良い作用があると思います。

(小野寺委員)

祖父母と暮らす家庭では煮物とか昔風の和食が中心ですが、核家族ではどうしても子どもが好きな洋食の方に食生活が偏りがちのようです。

(佐藤委員)

今日のお話で、肥満傾向が課題ということですが、資料の「一関市食育推進計画」を見ますと、食文

化の継承ということもありますので、今後より徹底されるとよいと思います。家庭での食育がもちろん大切ですが、親の立場としては、もう少し踏み込んだ対策があると有難いなと思います。

花泉地域の教育振興運動では、今年、子ども、親、学校、地域、行政の5者で食育の取り組みをすることとしています。「一関市食育推進計画」の目標については、市民の皆さんにしっかり伝わっていくとよいと思います。

(市長)

千厩高校のソフトボール部の監督が、よくお米を食べるようにということを言っていたようです。宮沢賢治の作品でも「米を食べる」という言葉が出てきます。よりしっかりとした体力をつけるために、まずは米を食べることが大切だと思います。

(教育長)

地域の農業とか食育とか伝統食の大切さが、教育や市民の中に広がっていくことが重要ですし、「体力」のテーマについては、裾野の広い分野なので、今後また取り上げることもあるかもしれません。時間になりましたのでこれで終わらせていただきます。

9 担当課

市長公室政策企画課